

Okahata

NEWS LETTER

Business updates, new ideas and more
from Okahata

2020
05



皆さま、岡畑典裕です。

長丁場のコロナ禍、岡畑興産は "With コロナの原料課題解決の為に、メーカー様の代わりにすぐに動く、むしろ動きが加速する専門商社 " を目指しチャレンジを続けております。皆さまとの面談機会が少なくなる中でも、弊社取組やお役に立てるサービスを知っていただきたく、社長責任編集でニュースレターを用意しました。移動時間や在宅勤務のお供に、御笑覧いただければ幸いです。

(PDF はスマホ・タブレットで読みやすい形に調整)

弊社は社会・社員の安全を考え、2月17日から時差出勤を始め、思えばあっという間にWeb推進&在宅勤務体制にシフト。取引先の皆様のご協力もあり、営業力・仕事の質を落とさず、在宅率80%で事業経営できる体制まで持っていくことが出来ました。直近では5/11の全社Web会議にて社員へのWeb推進&在宅環境支援金支給を発表&即日振込。全員がWithコロナに腹を括り、攻めモードに転じております。

2016年の社長就任以来、

"社内外問わず、個性溢れるオモロい人達が自然と集まり、あーだこーだ知恵を出し合い、時には遊びの中から新しいアイデアを生み出し"、

"0→1→100 を実現する、クリエイティブで人間臭い、これぞ営業って言う仕事、大きな岩が動かせる会社"を目指し、必死に経営してきました。

今年は韓国・中国に続き、インド注力の年とも宣言。

その矢先の、"人間臭さ"を全否定する With コロナ。それでも、目指す青臭い理想も、注力分野も、変えるつもりはありません。

展示会も海外出張も不可、対面営業も減らさざるを得ない時代ではありますが、我々には Web Meeting という **"どこでもドア"** と、 **韓国・中国・台湾個会社の機動力** という強み(全てコロナ押さえ込み先進国)があります。Web形式で現地社員・パートナーを呼ぶ、韓・中・台・印の生々しい情報交換会や、バーチャル工場訪問などを企画し、With コロナでむしろスピード感上がったんじゃないの?とだけ言っていたら、With コロナ適応型の貪欲な営業活動を進めて参りますので、引き続き、弊社営業パーソンへのアドバイス・サポートよろしくお願ひします。

Withコロナは 先が読めない時代ではなく、 韓中台の先行事例にアンテナを張れば、 先は“読める”時代です。

韓国のコロナ対策：Okahata Koreaからのレポートです。
(社内報Gazette2020年5月2便よりそのまま引用)

昨年12月頃、中国からスタートして世界中パンデミックCOVID 19によって各国が大変な状況に陥りました。COVID 19に対応策において、韓国はよい手本と世界から褒められています。韓国のCOVID 19の対応策については公開・透明・民主という基本方針において、積極的にCOVID 19感染防御してきたと聞きました。私はさらに、迅速で過度とも言える徹底した診断体制が寄与したと考えます。

韓国には今回の様なCOVID 19に効果的に対応可能で国家的な伝染病などに統合管理する疾病管理本部という政府機関があります。過去MERSウイルス、新型インフルエンザ、狂牛病、鳥インフルエンザなどが全国に蔓延し多くの生命を失ったつらい経験もありました。その多大な被害を被った上で疾病管理本部の役割が疫学調査・防疫過程などの単純な管理ではなくコントロールタワーとして権限を与えることで、今回のCOVID 19に効果的に対応できる原動力になったと聞きました。

したがって、いつ襲ってくるか分からない疾病について多くのシミュレーションを通じてマニュアルと管理指針を作り、昨年12月中国でCOVID 19発生時から準備されたマニュアルによって 疾病管理本部で関連

業務を稼働し始めたようです。

第一に、効果的に診断に対応するため、関連製薬会社とのミーティングを通じて最速で診断試薬を開発しました。そして政府は緊急使用許可を通じて2月末に4～5時間以内に診断可能なPCRという診断試薬を開発することになりました。それで一日あたり約2,000件の診断能力を20,000件以上まで引き上げました。これによって速やかにCOVID 19統制が可能な武器になったと考えられます。

第二に、COVID 19への取り組みにおいて、政府は国民に隠さず進行状況について説明し、国民への協力などを求めてきました。専門性を持っている疾病管理本部が初期段階から国民とのコミュニケーションに関わり、国民に信頼され、国民が混乱に陥らないよう、重要な役割を果たしていると思われます。

第三に、韓国の発達したインターネットとIT技術を活用し、リアルタイムでCOVID 19現状を誰にもすぐ閲覧できるように共有してきました。クレジットカードと多くのCCカメラなどのデータを活用して感染者動線把握、感染者の情報共有、自宅隔離アプリが可能になってCOVID 19の2次拡散を最小限に抑えることができたと思われます。

第四に、迅速で過度ともいえる徹底した診断をし、感染者およびその周辺の疑わしい感染者などを包括的に検診、感染者を分離隔離することで2次感染を極力防ぐことができたと思われます。さらに 世界中にも凄く話題になったドライブスルー検診、ワーキングスルー検診などを全国的に運営して 素早い診断が可能でありながら医療者への2次感染を防いで医療崩壊を防げた要因の一つと考えられます。

初期には全ての感染者を病院で分離管理していましたがDAEGU中心に感染者の急増により一部地域で医療崩壊の兆しが見られました。しかし韓国政府は感染者

の状態を重度・軽症に分離し、民間企業が協力した研修院及び政府研修院などに軽症者を分離して管理することで医療システムの崩壊することを防ぐことが可能だと思われます。

最後に、韓国がCOVID 19の成功事例を書いていくのには政府を信じて管理指針に従う韓国国民の積極的な協力があったから可能だったと思われます。

まだ、COVID 19の火種は消えていない状態で、いつ再び大きくなるか分からない状況です。ワクチンや治療剤が開発されるまでは、すべての人々が感染に気をつけなければならないと思われます。

OKHグループの皆様、そしてご家族の皆様もお身体大切にご自愛下さい。(OKK河)

■ 編集後記

「ポジティミズ or オプティミズム」

(社内報Gazette2020年5月1便より引用)

今月号も新型コロナウイルス（COVID-19）の投稿が多くを占めていますが、少しずつ今後のライフスタイルを考えている人が増えていることに安堵感を覚えます。

テレビでは途切れることなくCOVID-19について報道をしていますが、政府の対策も、情報も、何が正しくて何か間違っているのかを知る由もなく、一喜一憂する毎日でした。そんな不安の中で観た「緊急対談 パンデミックが変える世界～海外の知性が語る展望～」は秀逸でした。国際政治学者 イアン・ブレマー、歴史学者 ユヴァル・ノア・ハラリ、経済学者・思想家 ジャック・アタリ三氏へのインタビュー（インタビューアー：道傳愛子）は、今、何を考え、何をしなければならないかに対して示唆を与えてくれ、モヤモヤした心の霧が少し晴れるような気がしました。

その中で道傳氏の「あなたのその一貫した楽観主義、『生命万歳!』とか『ポジティブに考えて生きよう』とか。そのポジティビズムやオプティミズムはどこから来るのですか」という問いに、アタリ氏は、「まず、ポジティビズムはオプティミズムとは異なります。たとえば、観客として試合を見ながら「自分のチームが勝ちそうだな」と考えるのがオプティミズムです。一方、ポジティビズムは、自らが試合に参加し「うまくプレイできればこの試合に勝てるぞ」と考えることです。私は人類すべてがこの戦いに勝てると考えています。自分たちの安全のために最善を尽くし、世界規模で経済を変革させていくことができればきっと勝てるでしょう。今の状況は私が「ポジティブ経済」と呼ぶものに向かうとても良いチャンスだと思っています。ポジティブ経済とは、長期的な視野に立ち、私が「命の産業 Life Industries」と呼ぶものに重点をおく経済です。生きるために必要な、食料、医療、教育、情報、研究、イノベーション、デジタルなどの産業です。生きるのに本当に必要なものに集中することです」と答えています。

自己を律し、注意深く、勇気を持って歩むことの大切さを痛感する毎日です。(kiki)

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行
2020年5月25日号
発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6
TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

2020.5.25 / Issue 001